製品別比較表（標準製剤との比較）（案）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 後　　発　　品 | 先　　発　　品 |
| 会　　社　　名 | 第一三共エスファ株式会社 |  |
| 製　　品　　名 | タゾピペ配合静注用2.25「DSEP」 | ゾシン静注用2.25 |
| 薬価  （2025年4月1日時点） | 660円 | 923円 |
| 規　　　　　格 | 1バイアル中に  タゾバクタム（日局）0.25g（力価）及びピペラシリン水和物（日局）2.0g（力価）を含有 | |
| 添加物 | 炭酸水素ナトリウム注）0.395g、pH調節剤  注）溶解補助剤として使用しているが、凍結乾燥により炭酸ガス及び水として消失している。 | 炭酸水素ナトリウム注）395mg  注）溶解補助剤として使用しているが、凍結乾燥により炭酸ガス及び水として消失している。 |
| 薬効分類名 | β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤 | |
| 効能・効果 | 1.一般感染症  〈適応菌種〉  本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、クロストリジウム属（クロストリジウム・ディフィシルを除く）、バクテロイデス属、プレボテラ属  〈適応症〉  敗血症、深在性皮膚感染症、びらん・潰瘍の二次感染、肺炎、腎盂腎炎、複雑性膀胱炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎  2.発熱性好中球減少症 | |
| 用法・用量 | 1. 一般感染症   ・敗血症、肺炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎及び胆管炎の場合  通常、成人にはタゾバクタム・ピペラシリンとして、1回4.5g（力価）を1日3回点滴静注する。肺炎の場合、症状、病態に応じて、1日4回に増量できる。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。  通常、小児には1回112.5mg（力価）/kgを1日3回点滴静注する。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。また、症状、病態に応じて1回投与量を適宜減量できる。ただし、1回投与量の上限は成人における1回4.5g（力価）を超えないものとする。  ・深在性皮膚感染症、びらん・潰瘍の二次感染の場合  通常、成人にはタゾバクタム・ピペラシリンとして、1回4.5 g（力価）を1日3回点滴静注する。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。  ・腎盂腎炎及び複雑性膀胱炎の場合  通常、成人にはタゾバクタム・ピペラシリンとして、1回4.5g（力価）を1日2回点滴静注する。症状、病態に応じて1日3回に増量できる。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。  通常、小児には1回112.5mg（力価）/kgを1日2回点滴静注する。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。また、症状、病態に応じて1回投与量を適宜減量できる。さらに、症状、病態に応じて1日3回に増量できる。ただし、1回投与量の上限は成人における1回4.5g（力価）を超えないものとする。   1. 発熱性好中球減少症   通常、成人にはタゾバクタム・ピペラシリンとして、1回4.5g（力価）を1日4回点滴静注する。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。通常、小児には1回90mg（力価）/kgを1日4回点滴静注する。なお、必要に応じて、緩徐に静脈内注射することもできる。ただし、1回投与量の上限は成人における1回4.5g（力価）を超えないものとする。 | |
| 製品の性状 | 用時溶解して用いる凍結乾燥注射剤  白色～微黄白色の塊又は粉末  タゾピペ配合静注用2 | 用時溶解して用いる白色～微黄白色の塊又は粉末の凍結乾燥注射剤 |
| 先発品との  同等性 | 本剤は注射用製剤であることから、該当しない | |
| 備考 |  | |
| 担当者、連絡先 |  | |

2025年4月